

EVENT 105 MARKETING

発行所：株式会社 MICE 研究所
〒105-0004 東京都港区新橋 5-12-9 ABCビル 4F-A
TEL03-6721-5303 sofufu@event-marketing.co.jp

特集

会場・エリアと共創するイベントづくり
—新スタイル、エリア MICE、オープン情報—



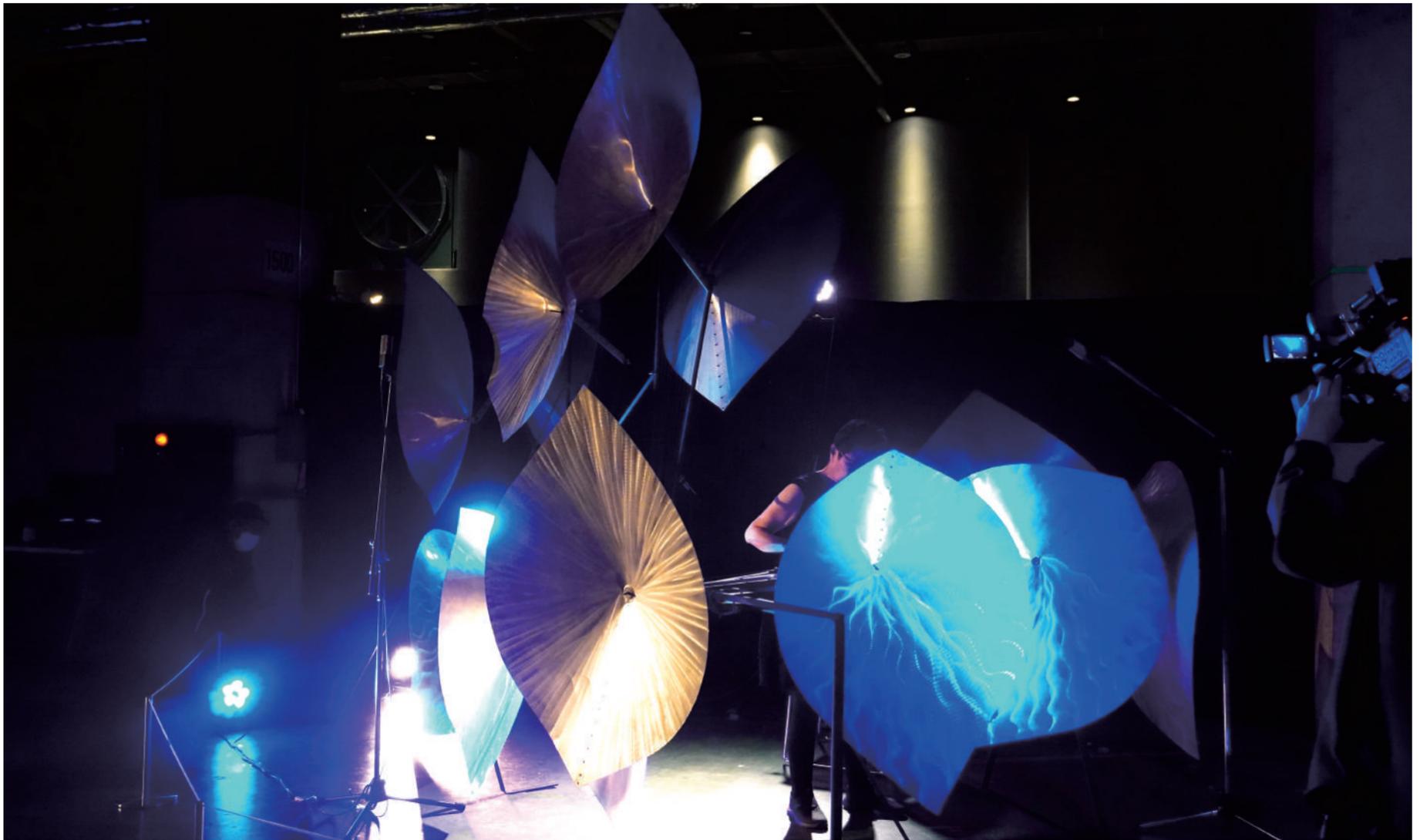
不定期シリーズ

サステナを選択肢
展示会 #01

TAKE FREE

www.event-marketing.co.jp

人はそれぞれに小さな公園



人はそれぞれに小さな公園だ。

木々があれば鳥が飛び、
笑顔があれば人が集まってくる。

公園を荒野にしてはいけないよ。

(「セフティ・マッチ氏、炉辺で語る」より)

この詩が好きで、時々思い返して、公園が
荒野になっていないか、見回りをして、心の
掃除をしたりする。

人が公園ならば、人々が集まったそこは、
大きな広場だ。なんて、詩の続きを勝手につ
なげてみたりして。

そして、その広場の風景を想像するとき、
人と人の想いが重なって生まれるのがイベ
ントだ、とも思う。

3月8日、続けて3月16日に「アート&サ
イエンスフェスティバル」、巡回展「1970 大阪

万博展覧会」(福岡・神戸・東京)の関連イ
ベントが開催され参加した。1970 年大阪万博の
レガシーを再編集するイベントで、音響彫刻
バシェと出会った(写真は3月16日・東京)。

イベント自体は時間が経過すれば消えてし
まうものだけれど、イベントによって表出した
人の願いは、人を媒介にして残っていくことを
体感した出会いでもあった。

音響彫刻を制作したバシェ兄弟の「誰もが
演奏を楽しめる楽器」に込めた平和への想い
を代弁し、演奏者としていまに伝える永田砂
子さん(バシェ協会会長)から教えていただいた。

人の輪をつくっていた音響彫刻に聴き入る
風景はきっと変わらないと思う。バシェ兄弟が
“新しい音”を追求したように、ひとの探究心
が枯れない限りは。
(編集部 樋口 陽子)

オンラインでも ハイブリッドでも、

ビジネスイベントのお悩みは
イベントレジストにお任せください



申込受付を統合管理

- ・ウェブ事前受付、オンライン決済
- ・イベントへのスマートチェックイン
- ・イベント登録者のみへの視聴ページアクセス制御



充実した機能

- ・入場管理 ・来場者トラッキング
- ・来場通知 ・入場パス発行 ・アンケート
- ・視聴者トラッキング ・ビジネスマッチング
- ・ブレイクアウトセッション ・スポンサー CM



ビジネスイベント実績多数

- ・カンファレンス ・セミナー ・展示会
- ・ウェビナー ・プライベートショー
- ・オンデマンド配信を含むハイブリッドイベント



イベントレジスト株式会社
<https://eventregist.com>

資料請求・お問い合わせ
contact@eventregist.com



会場・エリアと共創するイベントづくり

—新スタイル、エリアMICE、オープン情報—

イベントコンテンツとのマッチングで、会場には、これまで以上に高い訴求力や多様性あるつながりの醸成など、付加価値が期待されている。新スタイルやエリア MICE の動き、新たな会場オープン情報などから、会場との共創によるイベントの魅力づくりや活用法のヒントを紹介する。

TOPICS

麻布台ヒルズ ヒルズハウス「大階段」

街、景観と呼応し 想像力を刺激する場所

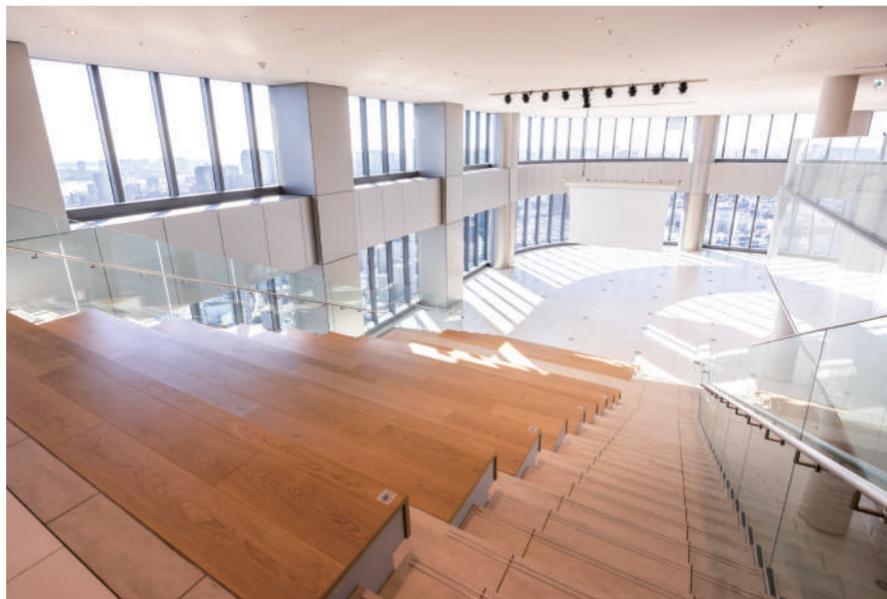
2023年11月24日にオープンした麻布台ヒルズ。森JPタワー33階のスカイロビーには、オフィスワーカーが行き来し、一般観覧*は平日でも6000人が訪れる。目の前の東京タワーや東京湾、レインボーブリッジを望む景観が人気となっている(*3月18日現在)。

このスカイロビーで特徴的なのが、幅8mの階段と高さ9mの吹き抜けのダイナミックで開放的な空間「大階段」だ。日常的なオフィスロビーとしての機能を持ちつつ、特別なイベントスペースとしても提供されている。

“Green & Wellness” 街のテーマにパートナーと実現

森ビル株式会社で麻布台ヒルズの都市開発に携わり、「大階段」を含むヒルズハウスの施設を担当する丸山貴之さんは、街全体について「麻布台ヒルズは、約8.1haの広大な区域の中心部にまず緑豊かな広場を計画し、その後タワーを配置していく、という作り方が特徴的な街」と紹介する。また、街のテーマである“Green & Wellness”を、オフィス、住宅、商業施設、文化施設、教育機関や医療機関などのパートナーとともに実現していく構成となる。

新しい都市像を展開するなかでの、イベントスペースの役割を聴くと「街のなかでの広場の機能として、人々が集まり、営みが生まれるところ」と話す。



麻布台ヒルズ内ヒルズハウス「大階段」階段には120名ほど着席でき、スクリーン、照明は常設。1～2日の短期でのビジネス利用の貸出をしている

「大階段」は、オフィスワーカーのロビーとしての機能を持つことから、ワーカーの憩いの場として、取材した日にも多くの交流シーンが見受けられていた。こうした場所柄、イベント利用も招待制イベントやピッチイベントなど、ビジネス向けの貸切利用を想定し、すでに活用が進んでいるという。

施設一体利用や街との連携も

「大階段」を含むヒルズハウス全体の運営サポートをするのは株式会社ホットスケープ。こ



「大階段」でのプレゼンテーションの様子 イベント事例。夜のエモーショナルな景観は日中の開放感とはまた異なる表情をみせる



ヒルズハウス「Sky Room」 「大階段」をそのまま上がると、34階の「Sky Room」へスムーズに移行できる構造になっている。三國清三シェフプロデュースのフルコース提供も

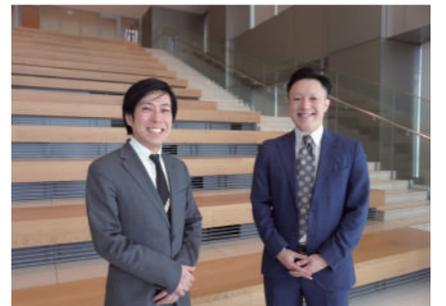
プレゼンテーションを実施した後、大階段を上った34階にある麻布台ヒルズ唯一のダイニングスペース「Sky Room」へ移動し、パーティをするといった一体利用の例も多い。

また、これまでに実施したイベントでは、階段スペースを観客席ではなく舞台に、平場を客席にしてもてなした例など、スペースの活用方法も広がっている。

鳥澤さんは「実際にご覧いただくと想像力が刺激される場所です。利用者の皆さんのイメージを叶えられるよう、イベントデザインをしていきますのでご相談ください」と話す。

丸山さんは、「ビジネスのハレの場として活用してもらいたいですし、街一体での活用もできるポテンシャル高い場所」と期待する。

まだまだイベントの可能性が広がりそうだ。



森ビル株式会社
営業本部 オフィス事業部 企画推進部
丸山 貴之さん(写真左)

株式会社ホットスケープ
事業推進部
鳥澤 祐介さん

30年以上の実績。「万全な直接受注体制」
イベント企画・制作・運営

利用者のニーズに対応し施設の価値を底上げする
イベント施設運営・コンサルティング

HOT SCAPE
EVENT PROFESSIONALS | VENUE CONSULTANT

Make It Communication
人・企業・施設・街をつなぎ、世の中に発信する

事業内容

イベント・MICEの企画・運営

企画立案・演出・デザイン・進行・管理・運営
ワンストップ体制により制作工数を削減
イベント施設管理 イベント施設営業・運営
イベントホール・カンファレンスセンター・展示会場・商業施設・会議室など
運営・管理・マネジメント・利用率向上・各種サポートサービス
イベント主催
課題解決に直結するイベントソリューションの実現
MICE/業界の活性化や若者育成の活動を主催・参画
プロジェクトコンサルティング
イベントプロデュース・施設コンテンツ・施設ファシリティ
企画・計画から運用までサポート

運営 管理施設

虎ノ門ヒルズフォーラム / 六本木アカデミーヒルズ / 表参道ヒルズ
ラフォーレ原宿 / 虎ノ門ヒルズオーバル広場を含むイベントスペース
麻布台ヒルズ内ヒルズハウス
丸ビルホール&カンファレンススクエア / コンファレンススクエアエムプラス
新丸ビルカンファレンススクエア

社員採用・登録スタッフも随時募集中

※詳しくはHPをご覧ください

株式会社ホットスケープ

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-7-7 虎ノ門八東ビル5F
TEL: 03-6205-7197 FAX: 03-6205-7198
http://www.hot scape.jp



エリア MICE ①

東京観光財団「令和5年度ユニークベニューショーケースイベント」

すみだ MICE
相撲の聖地やペンギンとのビジネスイベント

IR: Integrated Resort (統合型リゾート) のように、国際会議や展示会、ミーティング、パーティ、観光と1箇所で完結する MICE のプランもあるが、IR がなくても、エリアで連携するという提案もある。そのような動きのヒントとなる“エリア MICE”について紹介する。

2月15日、「国技館」ではプレゼンエリアとエキシビションエリアの用途別のゾーニング展開、「すみだ水族館」では施設全体を使ったパーティ演出、そして移動は隅田川を運行する水上バスや観光バスを利用するなど、「すみだ」で開催する MICE はわずか約3時間半とは思えない充実の体験となった。

公益財団法人東京観光財団が主催する「令和5年度ユニークベニューショーケースイベント(以下ショーケース)」での事例を紹介する。

【国技館】

両国にある「国技館」は、大相撲場所以外の日程で貸し館も行っている。最大1万人収容の空間は、可動式の浅敷席により自由な会場レイアウトが可能だ。ショーケースでは大ホールを利用し中央にトークステージを設置、2分割し、前半をプレゼンエリアでの着席式トークショー、後半をエキシビションエリアでパーティを実施した。力士による AR スペシャ

ルパフォーマンスやちゃんこが振る舞われるなど、場とコンテンツの相乗効果が印象的だ。

【すみだ水族館】

東京スカイツリータウン®にある「すみだ水族館」は、ライトアップされた水槽のあるフロアの貸切対応をしており、原則として平日夜間に実施している。ショーケースでは、新日本フィルハーモニー管弦楽団による入り口でのウェルカム演奏、2フロアある展示フロアの生き物たちを鑑賞しながら回遊。水量約350トンの屋内開放のプール型水槽で泳ぐマゼランペンギンをみながらサステナブルに配慮したパーティと、全館貸切で展開された。

エリアに点在するコンテンツを上手につなぎ、IT ツールも活用しながら文化や歴史の情報提供や体験を生み出して、移動にも水上バスなどエモーショナルな夜景を印象的に活用する。すみだ MICE の取組みは、エリア MICE の醍醐味を感じるものだった。

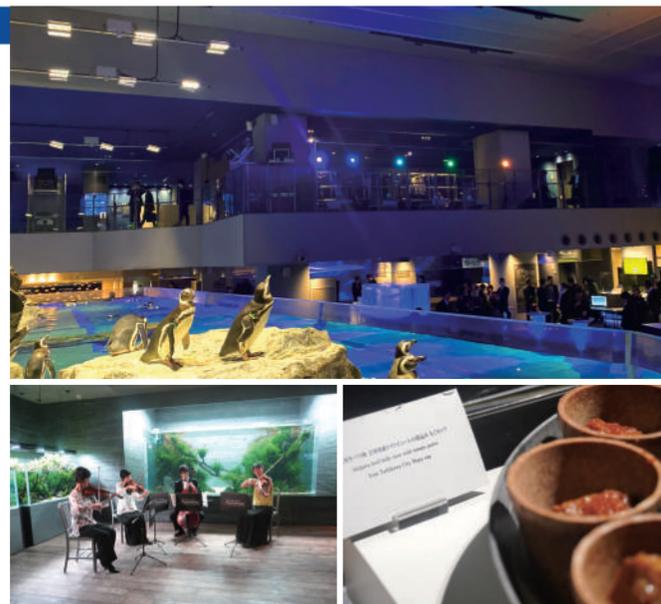
国技館

「国技館」大ホール(写真上)。土俵は床下収納され、つり屋根はカラー照明で空間演出がされていた。ショーケースでは、プレゼンエリア(写真左下)でトークショーを実施。その後、参加者がステージの裏側に移動すると、エキシビションエリアでパーティスタイル・レイアウト展示が用意されており(写真右下)、ガラッとシーンが切り替わる。エキシビションエリアでは、パフォーマンスと食事が提供されたほか、墨田区「ものづくり」コンテンツ展示も



すみだ水族館

「すみだ水族館」の水量約350トンの屋内開放のプール型水槽で泳ぐマゼランペンギンがいる展示エリア(写真上)でパーティが行われた。入り口では新日本フィルハーモニー管弦楽団によるウェルカム演奏で出迎えられ(写真左下)、2フロアの展示エリアを自由に回遊しながら、クラゲが漂う空間などを楽しんでパーティ会場へ。水槽で泳ぐペンギンを横目に、江戸東京野菜を使った料理やすみだにちなんだメニュー、サステナブルドリンクなどが振る舞われた(写真右下)



資源を、まわす。
昭栄が、まわす。

昭栄美術は2024年
一歩新しい未来を創るための取り組みを進めています

昭栄美術が提案する
新しい展示会のカタチ
「循環型ディスプレイ」についての特設サイトはこちら

SHOEI 株式会社 昭栄美術

東京本社
〒104-0044 東京都中央区明石町8-1 聖路加タワー25F
TEL: 03-5148-6651
https://www.shoei-bijutsu.co.jp/

株式会社 昭栄美術は
業界に先駆けて「ISO20121」の
認証を取得しており
サステナブルな展示会・イベントの
企画・施工を行っております

すべて
仮設のチカラ
で実現できます！！

- ・楽しい空間作り
- ・仕事帰りにふらりと憩いの空間
- ・週末に家族で楽しめる場所
- ・遊休地の活用 etc...

エアースタイル
Nコンテナ
簡単テント
テーブルハウス
コネクションベンチ
テラスカフェ
テーブル・チェア

NISHIO

総合レンタル業のバイオニア
西尾レントール株式会社

〒108-0022
東京都港区海岸 3-20-20 ヨコソーレインボーレインボータワー 1F
TEL: 03-5765-2400
担当: 七井

HP・お問い合わせはこちら

エリア MICE ②

DMO 芝東京ベイ

ユニークローカルパーソンを探せ

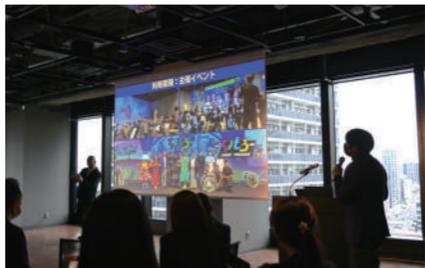
浜松町・竹芝・芝浦エリアでのビジネスイベント、MICE の開催を支援する「DMO 芝東京ベイ」では、会員交流と活性化の取り組みの一環として定期的に勉強会を実施している。

「DMO 芝東京ベイ」の設立は2021年9月、現在の会員数は65。東京タワーや増上寺などの観光名所、東京都立産業貿易センター浜松町館やホテル インターコンチネンタル東京ベイなどの MICE 会場・宿泊施設のほか、エンタメ施設、飲食店、商店街、大学・高等学校まで、会員の多様性が特徴的だ。

2月29日開催の「第9回勉強会」では、約2時間、2部構成で実施され、第一部では会場となった東京ポートシティ竹芝ポートホール / ポートスタジオの管理運営をする株式会社

インフィールドの初瀬広壮さんが施設を紹介。リアルイベントのトレンドとして社内エンゲージメントを高めるイベント需要の高まりについてや、MICE の取り組みとしてエリアで誘致をするための試みと実際の動き、などを共有した。

また、第二部ではアイデアワークショップとして「ユニークローカルパーソン (以下 ULP) による地域の魅力発信プロジェクト」の企画を紹介。1グループ5~7名ごとに7つのグループに分かれ、ULP をセットにした MICE コンテンツのアイデア出しを行った。発表では、学生×エリアの自然の魅力講演会、ユニークパーソン×コースターなど、ならではコンテンツやグッズのアイデアが披露された。



場所起点ではなくエリア起点でのイベントとして「ちょっと先のおもしろい未来 (ちょもろー)」を例にテクノロジー活用×体験の企画の重要性について紹介する初瀬さん



「ユニークローカルパーソン」をテーマにアイデアワークショップ。ユニークな人物の記事を参考に MICE 参加者に忘れられない印象を残す体験提供を目指す

新規オープン①

4月1日 開業

ベルサール新宿南口

新宿御苑を臨む、開放感

新宿駅徒歩4分、住友不動産新宿南口ビル3・4F の新宿御苑を臨む立地に、722㎡のイベントホールと83㎡~142㎡の6室の貸会議室が開業する。2階には12~13㎡の控室3室も用意されている。

徒歩5分圏内に、新宿駅、新宿三丁目駅、代々木駅と8路線・3駅の好立地。

3階イベントホールは727㎡219坪と、ロビー212㎡。最大でスクール2名掛けで288人、同3名掛けで432人、シアター684人掛け、高型336人まで収容できる。天井高は6.0m、耐荷重800kg/㎡となっている。

設備は300インチ電動スクリーン、定点カメラ、施設専用インターネット回線の有線LANとWifiのほか、電動道具バトン6本、電動ダブルバトン3本、ロビーに固定バトン1本を備える。

4階は、ROOM1が142㎡、ROOM2が137㎡、ROOM3が115㎡、ROOM4・5が各83㎡、ROOM6が123㎡となっており、ROOM1と2、ROOM3と4、ROOM5と6を連結して利用でき、多様なニーズに柔軟に対応する。4階の天井高は3.5mとなっている。

搬入出は地下1階の荷捌き場から、車両制限は高さ3900mm x 長さ7700mm、重量は4.0t



ベルサール新宿南口外観

まで。エレベーターの内寸は間口1950mm、高さ3000mm、奥行き1800mm、積載荷重は1650kgまでとなっている。

近隣にベルサール新宿グランド、新宿住友ホール、新宿住友ビル三角広場など多数の施設があり、連携した利用の仕方なども考えられそうだ。



4階会議室 ROOM5+6

イベントの成果を 最大化する

イベント・アーカイブス



イベント専門出版社の取材力と発信力、撮影・編集のプロフェッショナルとのネットワークを活かし、自社セミナー、新商品発表会、展示会出展などの、プロモーションの様子を再編集し、アーカイブ・編集することで、イベントの出展効果を最大化できます。

イベント・アーカイブスについてのお問合せは

株式会社 MICE 研究所
〒105-0004 東京都港区新橋 5-12-9 ABC ビル 5F
TEL 03-6721-5303 / info@event-marketing.co.jp
<https://www.event-marketing.co.jp>

Deeply Immersive Experience

最近、よく耳にするようになった「イマーシブ空間」は、イベントやエンターテインメント空間はもちろん、店舗やオフィス、教室など、多くのシーンで、高い体験価値を提供することができます。私たちはそのイマーシブ空間を様々な課題解決に活用できると考え、イマーシブ空間の創造をゴールとするのではなく、お客様のゴールを達成するためのツールのひとつとしてご提案いたします。



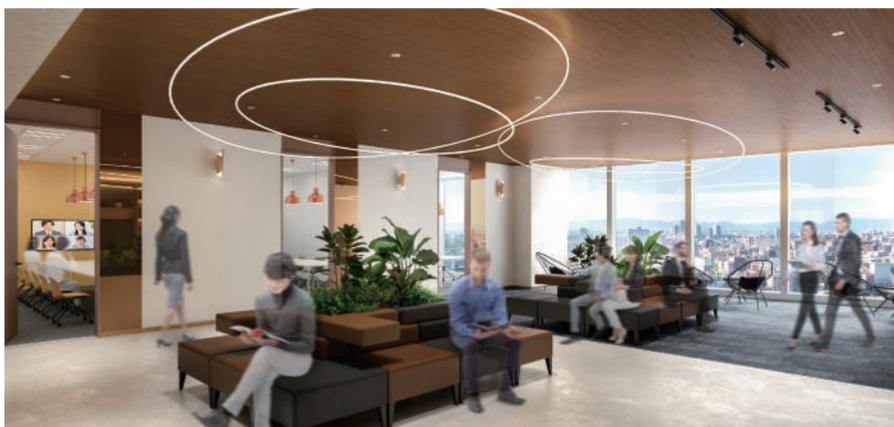
SYMUNITY GROUP

SYMDIRECT TEP S2021 ТАКЕПІККА АRIK VENTURES SymX Inc. PRESSTONE SWAG Tase Service

新規オープン② 10月1日 開業

ミーティングスペース AP イノゲート大阪

クリエイティブ×ユニークな発想空間へ



「ミーティングスペース AP イノゲート大阪」の特徴となっているクリエイティブラウンジ (写真上・左下)。クリエイティブラウンジのデザイン性の高いインテリアや、採光の良いガラス面からの景観、調光だけでなく調色できる照明は企業カラーやイメージ転換に優れる。サイズバリエーションも豊かな12室で展開する。写真右下は186㎡のRoom D

東京・横浜、名古屋、大阪エリアで19の会場施設を運営する株式会社TCフォーラム。会場名はAP日本橋やAP品川のように、APと所在地名で展開し、認知されているが「初めて“ビル名”の入った会場となる」と話すのが「ミーティングスペース AP イノゲート大阪」だ。

駅直上のイノゲート大阪の11階フロア全体に、12室のミーティングスペースを展開し、10月1日の開業を予定している。

「Innovate (革新する)」+「gate (ゲート)」の組合せがビル名の由来で、多様化するワークスタイルに対応する。眼下には都市公園としては世界最大級の約4.5haの緑地をもつうめきた公園が広がるロケーションとなる。大阪駅前の新しいまちづくり、うめきたと共に大規模

模開発の一角であり、2025年までに13万㎡のオフィスが大量供給されるという場所だ。

「近隣圏の企業や西日本最大のターミナル駅として全国からの利用はもちろん、大阪・関西万博でのグローバル企業の交流拠点といったニーズも視野に入れています。ビル内のフレキシブルオフィス『コンパスオフィス』の入居企業が行う商談交流会を定期に実施するような案件に対して、連携体制づくりもすでにはじまっています」(営業推進部 清水拓志さん)

新たなニーズに応える特徴的なスペースもある。クリエイティブラウンジ150㎡だ。Room J+Kの194㎡と合わせ、約350㎡一体利用でのプレゼンテーション×商品展示、セミナー×パーティの連動利用などに対応する。

「シームレスな空間構成とイベントを華やかでクリエイティブにするユニークな演出で、ビルのコンセプトでもあるイノベーションの場として機能し、利用者の皆さんが踏み出せる場になればと思っています」

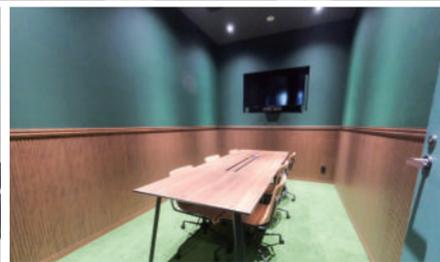
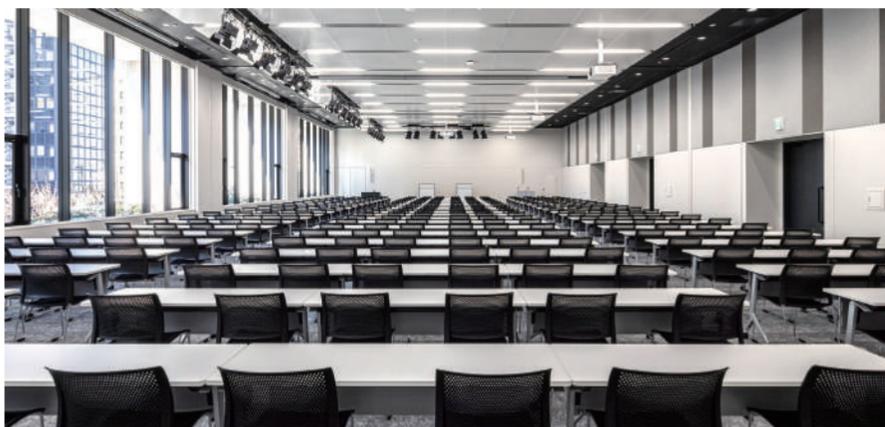


株式会社TCフォーラム 営業推進部 清水 拓志さん

新規オープン③ 5月7日 開業

新虎安田ビル「NIKAI Conference」

新橋・虎ノ門エリアにビジネス支援施設



「NIKAI Conference」は全体404㎡。4分割可能。写真上はRoom A～Dの404㎡でセミナー利用者向けのスクール形式レイアウト。写真左下はRoomD 98㎡でスクール形式64席レイアウト。写真右下は「NIKAI Flex」内のミーティングルーム。登壇者・参加者の打合せや事務局としての貸出にも対応する

新橋・虎ノ門エリアに2024年2月、新虎安田ビルが竣工。2階にはビジネス支援施設として「新虎安田ビル NIKAI」が開設され、ConferenceとFlex(会員制ビジネスシェアラウンジ)の2施設で展開される。

「NIKAI Conference」は、全体貸出時404㎡、ワンフロアにスクール形式最大300名を収容する。天井高4.5m・無柱の開放的な空間で、新虎通りに面した大きな窓が印象的な会場だ。最大4分割で、98㎡、99㎡×2室、108㎡での区分利用もできる。各部屋に150インチの天吊スクリーンと7000lmの天吊レーザープロジェクターが設置されている(全体使用の場合はメインに200インチのスクリーン・1万lmプロジェクターも)。

「新虎安田ビル NIKAI」を管理運営する安田開発株式会社の小林渉さん(事業部担当課長)は「JR新橋駅から徒歩5分、10分圏内には6駅11路線の立地のため、株主総会や全国での多拠点研修の会場としての利用を目的とした内覧などもあり、場所柄、不特定多数の参加のある、交流会、展示会などビジネスシーンでの活用が見込まれます」と期待する。

また、施設責任担当者となる岡本一将さん(同事業部)は「平日、土日・祝日も有人での対応体制が強みの会場。利用者となる主催者・企画運営会社の皆さまからのご要望に、柔軟に対応できるように、提携先等も増やしているところです。対応力の幅も増やしたいので、気軽に相談ください」と話す。

5月7日の開業に向け、提携先とも連携しながら対応中だ。



安田開発株式会社 事業部 岡本一将さん(写真左) 事業部 担当課長 小林 渉さん



西日本最大のターミナル駅「JR大阪駅直上」 2024年10月1日オープン! “圧倒的な利便性のイベント空間”



《ミーティングスペース AP イノゲート大阪》



Venue
Event
Community

集い、交わる場(中規模スペース・ベニュー/イベント主催者)を企画・運営するひとたちが集まって、べちゃくちゃおしゃべりしながら、よりよいベニューづくりを考えるコミュニティ

サステナ
の
選択肢
展示会
#01

2050年に展示会の 木材廃棄量をゼロにする試み

SUPER PENGUIN 株式会社
日本化工機材株式会社
株式会社アド・スペース



(写真左上)「JAPAN SHOP2024」のブースにて。中央が SUPER PENGUIN 竹村尚久さん、部材開発をした日本化工機材の杉山友彦さん、ブース施工をしたアド・スペースの牧野博幸さん。「再生板紙構法」ブース (写真右上)。日本化工機材が提供する角紙管 (写真右中央)。「再生板紙構法」ブースの裏面は美しく、そのまま見せるデザインの可能性もあるという意見も (写真右下)

最新の商空間デザイン・ディスプレイを紹介する店舗設備の総合展示会「JAPAN SHOP2024」で、展示会ブースへの新たな提案を行う発表があった。木材を使用せず、従来の木工ブースとはほぼ同じ形状製作が可能な「再生板紙構法」によるブースを試験的に製作。発表したのは展示会デザイン会社の SUPER PENGUIN 株式会社だ。

置き換えるという発想で 職人の仕事の場を守る

「JAPAN SHOP2024」の一角に、従来の「木工ブース」と、今回新たに提案する「再生板紙構法ブース」が全く同じサイズ・デザインで左右に並ぶ。アイキャッチと解説がなければ、外見上の違いはない。

「展示会業界の木材廃棄量をゼロにする」と

いう目標を掲げ、2050年を目指した第一歩のトライアルに、多くの業界関係者が訪れた。「将来展望や課題感を共有する機会になった」と会期後、SUPER PENGUIN 株式会社代表の竹村尚久さんは手応えを感じていた。

廃棄量への配慮は、サステナブルな対応を求める世の中の動きに呼応するものでもあるが、実際に展示会が終わった直後の廃棄物を目の当たりにして「このままでいいのか」と疑問に感じてきたことだという。

「展示会業界においてどのくらいの木材廃棄量があるかを調べたところ、ざっくりとした計算ですが、東京ビッグサイト・幕張メッセ・インテックス大阪といった主要会場だけで、年間約2万トンの木材を廃棄しているのが現状です」

これは今回の JAPAN SHOP で製作した2

小間ブースの木工量約400kgから算出、それを年間の総出展面積のうち、木工ブースとシステムブースの割合を6:4と仮定した数字だ。

廃棄物を削減するために、一概に木工ブースを無くせば良いという考えに、竹村さんは木工ブースの意味と業界の危機感をこう話す。

「木工によるデザインの自由度を担保すること、そして、展示会業界の木工ブースを製作面で支える職人の仕事の場を守ることも重要です」

この2点を両立したのが「再生板紙構法ブース」だった。

コストは1.5倍 重量などの課題も

実際、「再生板紙構法」では、材料をつなぎとめるビスの扱い方や素材が持つ重量、効率的な資材のサイズの製作など細かな部分で課

題があるという。また、木工ブースに比べ、コスト面では約1.5倍。今回のブースでは防災処理を施す費用がコストアップの多くを占めた。

今回のトライアルに協力した日本化工機材株式会社、株式会社アド・スペースからは、近い将来、需要が増えてくれば、どの課題も解決可能なもの。少なくとも価格を木工ブースと同じ程度にできる、という見込みもある。現状では、木工ブースから100%の再生板紙構法によるブースに移行するのではなく、2つの構法のハイブリット版に移行し、その後完全な再生板紙構法を実現する、という流れが自然だと話す。

「材料の置き換え」による本構法はかなり現実的な手法となりそうだ。サステナブルな取り組みが求められるいま、選択肢が一つ増えたと言える。

JSS
24HOURS/365DAYS

JSSは
施設警備
航空保安警備
イベント警備
身辺警備
交通誘導
保安警備の
プロフェッショナルです。

そこには笑顔がある

株式会社 JSS
TEL 0120-277-179

03-5806-4071
東京 神奈川 千葉 大阪 宮城 info@j-ss.jp

イベントの 未来を 科学する

をテーマに、時代にマッチしたイベント
マーケティングを実践。
今まで以上に新しい体験価値を
クリエイティブの力で解決。

tohgashi

トーガシ

検索

https://www.tohgashi.co.jp

体験 chill 押し活 記念日のテーマイベントも

— 第98回東京インターナショナルギフト・ショー秋2024ほか

株式会社ビジネスガイド社は、2月27日、記者会見で「第98回東京インターナショナルギフト・ショー秋2024」含む4展について、開催概要と出展スケジュールの発表をした。

4展の会期は、9月4日から6日の3日間、会場は東京ビッグサイト東



ビジネスガイド社代表の芳賀信享氏

ホール・西ホールを使用し開催。出展企業3000社・来場者数25万人を見込んでいる。

「第98回東京インターナショナルギフト・ショー秋2024」では、「心を伝える愛の贈り物」をテーマに、体験、chill (Relax)、押し活、記念日の対象分野と商品カテゴリーでテーマイベントを実施する。「第16回LIFE×DESIGN」のテーマは『革新の時代に求められる、新しい暮らし方のデザイン』。人気の“ACTIVE CREATORS”は西アトリウムで、定番となった伝統とModernの日本ブ

ランドフェア、SOZAI展、技術発信プロジェクトの町工場NOW!、建築・設計・デザインに対応するリノベーションゾーン、グランピング、サウナフェアも展開される。

プロダクトデザイナー喜多俊之氏プロデュースの「LIVING & DESIGN2024」には、家具、インテリア、住宅設備、水回り、建材メーカーなど海外メーカーも出展する。

3展の出展申込締切は6月3日。

「第36回グルメショー秋2024」は今回から名称を変更し開催される。出展申込期限は6月7日。

「ゲームで世界に先駆ける。」テーマに

— 東京ゲームショウ2024

一般社団法人コンピュータエンターテインメント協会は、日経BP、電通との共催で、「東京ゲームショウ2024 (TGS2024)」の開催を決定、2月29日から出展申込を開始した。

リアル会場、公式番組、バーチャル会場のハイブリッドで開催。幕張メッセに設置するリアル会場の会期は、9月26日から29日までの4日間で、26日・27日がビジネスデイ、28日・29日が一般公開日となる。

昨年は4年ぶりに幕張メッセ全館

を使用し、過去最多となる44カ国・地域から787の企業・団体が出展。今回は2500小間を募集する。公式出展社番組の専用配信スタジオを設置せず、新企画としてAIテクノロジーパビリオンを設置(ビジネスソリューションコーナー内*ビジネスデイ2日間のみ)、また、前回過去最多となる2,355件の商談が行われたビジネスミーティングエリアを拡大・ビジネスマッチングシステムを今回も活用する(システム稼働は8月9



前回商談数は過去最多2,355件を記録

日予定)。

バーチャル会場は、幅広いゲームファン向け、名称を「TOKYO GAME SHOW VR」から「TOKYO GAME SHOW Digital World」に改称。実施期間を延ばし、リアルに先立ち9月20日から(終了は10月6日を予定)。

アナウンススクール開校

— トーガシ

イベントの総合プロデュースを手がけるトーガシが4月9日、スポーツとイベントに特化した「トーガシアナウンススクール」を開校する。

講師は手塚夕紀子氏、中願寺香織氏、紺野陽子氏など、プロ野球の場内アナウンスはじめ、スポーツ競技のリポーターや関連イベントのMCを務める現役アナウンサーが務める。

フリーアナウンサーとして、長く活

躍できる手法など独自プログラムや、ワークショップなどを実施する。

受講生にはトーガシからイベントMCのオファーが受けられるほか、受講生だけに公開するオーディション



実践の場を数多く提供し、即戦力スポーツアナウンサーを育成

情報も提供され、MCとして活躍できるチャンスがあるのも特徴。

10人程度の少人数のコースで、入会金3万3000円、全9回の受講料が6万6000円などとなっている。

セミナーレポート

事前商談予約を前提に

～ 名刺管理の Sansan とスプラシアが協業 ～



イベントDXの成果を事例で紹介した

2月29日に株博展本社内の会議室で、「Eight × Sprasiaの事例から学ぶイベント主催の“いま、そしてこれから” イベントDXの活用と成功のカギ」が開催された。

出演は博展グループの株スプラシアから代表取締役社長の中島優太氏、大河内美里氏、茂野晃大氏の3人、ゲストにはSansan(株)の執行役員でEight事業部 Event Business 管掌の石本卓也氏の4人が登壇。

石本氏は、イベントのテクノロジーとビッグデータ活用で「偶然の出会いを必然に変え」さらに進化できると考えていた。

そのテクノロジーのパートナーとして、高い拡張性と多様な要望にはばフルスクラッチで対応するスプラシアと協業。博展グループでありイベントという共通言語をもつ開発会社であることもプラスに作用した。

Startup JAPAN EXPOでは、「FUNDeal (ファンディール)」と題して、投資家とスタートアップ企業との商談に特化した企画を実施。1万879人が参加し、2432面談が成立。そのうち半数がビジネスにつながる再面談に進み、出展者の満足度は91%を達成した。

その成功には「あなたにベストマツチ」、「お気に入り」、「面談コンシエ

ルジュ」の3つの機能が貢献。海外の展示会のように、会期前に事前アポイントをとる文化をつくるという石本氏のミッションを実現するために、細部にわたるUX・UIの要望に応えた。アンケートでは、属性情報やアルゴリズムを組みあわせて50通りのものを生成。全出展者と全来場者のマッチ度合いを計算して、それぞれの来場者自身にとって、最適な出会いが順番に表示し、来場者は順番にアポイントをとるだけで最適なパートナーを探せる。

1月11日、12日に開催された「ビジネスIT & SaaS EXPO 2024 営業マーケDX比較・導入展」(BIS)には、2910人が来場。“ROIは出展者の受注獲得”というコンセプトのもと、①DX展だが対象を営業とマーケティングに絞る②「商談直結型」の次世代展示会として開催③Eightを活用したイベントDXの3点を推進した。

Eightをイベントアプリのように運用し名刺情報をID化することで、オンライン登録にありがちな情報の不正確さを解消。出展者の会期後の営業活動が大きく向上した。また、Eightでの来場登録100%のみでの展示会運営が可能なのも証明した。

今後も両社の協業で新しい展示会スタンダードが次々に生まれそうだ。

EVENT MARKETING

FREE PAPER

読者Profile

特集

イベントマーケティングのトレンドを国内外の事例や動向から分析し、マーケター・イベントターの皆さんと共有します。

国内・海外ニュース

ツールやテクノロジーの最新情報、開催直前概況・事後レポートなどを紹介します。

インタビュー

幅広い視野と独自の視点、経験をもつ著名人が執筆します。

調査・レポート

効果測定や開催状況の集計、効果最大化の手法など、face to faceを科学するレポートをお届けします。

大手メーカーマーケター

▶年間イベント件数: 約20件

デジタルマーケティングとオフラインを組み合わせて販促とファンづくりに

製薬会社

ミーティングプランナー

▶年間イベント件数: 100件超

業界のファーストムーバーとして異業種のトレンドを知り講演会に活かしたい

IT企業向け

マーケティングサポーター

▶年間イベント件数: 約150件

イベントマーケティングに関わるテクノロジーやツールについて情報収集したい

毎月30日発行

定期送付申し込み

発行所: 株式会社 MICE 研究所
〒105-0004 東京都港区新橋 5-12-9
ABCビル 5F
TEL03-6721-5303
sofu@event-marketing.co.jp